

**音楽研究室における卒業研究の取り組み（Ⅱ）**  
**一学生が主体となって開催したキッズコンサートを中心に－**  
**Graduation Research Initiatives in the Music Laboratory (II):**  
**Focusing on the Kids' Concert Organized Mainly by the Students**

**渡 邊 寛 智**  
(保育学科)

キーワード：卒業研究、音楽、表現、コンサート、地域貢献活動

### 1. はじめに

令和2年から新型コロナウイルス感染症が日本国内で蔓延したことによって、本学の学生も遠隔による対応を迫られ、通常の学生生活を送ることができない困難な状況が続いた。短期大学部音楽研究室の学生も、そのような状況に翻弄されながら研究と実践発表を行った。YouTubeによる「みんなの詩」の実践発表、わらべうた研究のオンライン発表など、その状況に即した活動を行ったが、対面による子どもたちの前での実践発表ができない状況が続いた。2023年5月から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に引き下げられたことによって、対面での実践発表が再開できることになった。そこで、本稿では、令和5年度に音楽研究室の卒業研究の一環として、学生が主体となって企画・運営に取り組んだ「第1回キッズコンサート」の活動を報告する。

### 2. 卒業研究におけるキッズコンサート

#### 1) 音楽研究室における卒業研究の活動内容

令和5年度、保育学科音楽研究室の2年生の学生は5名で、2つのグループに分かれ、それぞれのテーマについて研究を進めた。各グループの研究テーマは「保育の音楽表現におけるオノマトペについての考察」というテーマで、保育活動で歌われている歌の歌詞のオノマトペの研究を行うグループと、「生演奏が子どもにもたらす効果についての研究-CDの演奏と生演奏の比較を通して-」というテーマで研究を行うグループである。

音楽研究室では、研究テーマに即した実践的な活動を行なっている。新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前は、研究テーマと関連するプログラムで子ども向けのコンサートを松江市内の保育園などで行っていた。ここ数年は、コンサートができなくなり、オンラインで研究成果を発表していたが、今年度から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に引き下げられてことによって、対面で

の音楽表現活動が可能になった。そこで、対面による子ども向けのコンサートを行うことにした。

## 2) 第1回キッズコンサートの開催に向けて

コロナ禍前に行っていた、松江市内の保育園などでのコンサート開催を考えたが、学生と話し合いを重ねる中で、多くの子どもたち、保護者の方が集まれるコンサートを開催することにした。そこで、学生の卒業研究のテーマに関連した内容のプログラムで、地域の子どもたちと保護者の方とともに音楽表現を楽しむためのコンサートを企画した。その後、学生たちが主体となって運営を行い、2023年7月17日に松江市市民活動センターの交流ホールで「第1回キッズコンサート」を開催することになった。

開催するにあたり、準備しなければならないことは「コンサートの内容（プログラム）」「コンサートチラシの作成（広報活動）」の二つである。「コンサートの内容」については、学生たちが卒業研究で取り組んでいる研究テーマに関連した内容の選曲を行った。コンサートの前半は、学生の研究と関連した音楽表現活動である「うたとリズムであそぼう！」。後半は、子どもたちに本格的なクラシック音楽に触れてもらうために、本学を卒業して、現役の保育士として活躍している卒業生にピアノの演奏をお願いした。また、コンサート名が「キッズコンサート」だけでは、子どもたちにどのようなコンサートなのか伝わらないので、サブタイトルとして「～さがしにいこう！にじいろのメロディー♪～」を学生が考案した。キッズコンサートのプログラムは以下の通りである。

### 【第1回キッズコンサート～さがしにいこう！にじいろのメロディー♪～】

#### 第一部 「うたとリズムであそぼう！」

さんぽ

おもちゃのチャチャチャ

すいかのめいさんち

どんないろがすき

にじのむこうに

ジャンボリーミッキー

#### 第二部 「特別ゲストはるかお姉さんのピアノコンサート」

子犬のワルツ(ショパン)

トルコ行進曲(モーツァルト)

革命のエチュード(ショパン)

合同演奏

みんなの詩(うた)

### 3) コンサートに向けた準備と練習

2年生の学生は、実習や就職活動があるなかで、どのようなコンサートにするのかを熱心に考え、プログラムの選曲から、チラシの作成、ホールスタッフの方との打ち合わせまで、一からコンサートの運営に積極的に関わった。

チラシの作成は学生たちによって行われた。イラストを描くことを得意とする学生が、最初の案の段階は手書きで進めていたが、途中からスマートフォンなどで立派なチラシを完成させた(図1)。



(図1) 第1回キッズコンサート、チラシの案から完成まで

キッズコンサートの準備、練習については、卒業研究の前半を研究の時間として文献調査などを行い、後半をキッズコンサート準備、練習の時間にした。この日々の練習では、学生がこれまでに学んだ保育の知識・技能を十分に活かしながら、それぞれの曲でどのようなねらいを設定して音楽表現を行うのか、アイデアを出し合いながら練習することを繰り返し、質の良い発表になる努力を重ねた。また、学生同士がコミュニケーションを図ることによって、自然と良いチームワークが生まれていた。

### 3. 第1回キッズコンサート～さがしにいこう！にじのメロディ♪～

#### 1) 第一部 「うたとリズムであそぼう！」

プログラムの前半は2年生による「うたとリズムであそぼう！」のコーナーであった。1曲目の「さんぼ」では、学生の一人があいさつをして、ピアノ伴奏で学生が登場するオープニングを飾るにふさわしい内容であった。2曲目の「おもちゃのチャチャチャ」は、歌詞の中に出てくるオノマトペのペープサートを使い、「チャチャチャ」「すやすや」「グーグー」「キラキラ」などがオノマトペであることを上手に子どもたちに伝えていた。3曲目の「すいかのめいさんち」では、手遊び歌をアレンジする形で、歌詞に出てくる「すいか」のところで手をたたくなど、簡単なリズム遊びを行った。4曲目の「どんないろがすき」は、学生が会場にいる子どもたちに、どんな色が好きなのかを客席まで聞きに行き、答えた色を学生がタブレットを使って虹を描き、その画面が後方のスクリーンに映し出されることで、子どもたちと一緒に虹を完成させた（図2）。



（図2）「どんないろがすき」では、子どもたちと一緒に虹を完成させた

5 曲目の「にじのむこうに」では、伴奏を生演奏ではなく、あえて録音の伴奏で行った。生演奏と CD による演奏の違いで、保育者の視点から、また子どもの視点で音楽表現を考える時間であった。1 部最後の曲は、当日 2 年生のサポートを務めてくれた音楽研究室の 1 年生も加わって、子どもたちに人気のある「ジャンボリーミッキー」を会場の子どもたちと保護者のみなさんと一緒に楽しんだ(図 3)。



(図 3) 会場の子どもとジャンボリーミッキーを楽しむ様子

## 2) 第二部 「特別ゲストはるかお姉さんのピアノコンサート」

後半は、保育学科を卒業して、現在松江市内の保育園で現役の保育士として活躍している卒業生が、素敵なピアノの演奏を披露してくれた。1 曲目のショパンの「子犬のワルツ」では、愛らしい子犬が駆け回る様子がうまく表現されている楽曲で、子どもたちは飽きることなく興味深そうに鑑賞していた。2 曲目の「トルコ行進曲」は、モーツァルトの代表的な作品で、楽しく心地よい旋律を聞きながら、子どもたちは保護者の方と演奏に聞き入っていた。3 曲目のショパンの「革命エチュード」は、本格的なクラシック音楽の名曲である。超絶技巧で演奏されるピアノに子どもたちは圧倒されていたが、最初から最後まで素早い指の動きなど注意深く聞く姿が印象的であった。アンコールの曲は、卒業生がその場で子どもたちからリクエストを聞いて、ジブリのメドレーを即興演奏で披露してくれた。

## 3) 合同演奏

コンサート全体のアンコールの曲として、ピアノを披露してくれた卒業生が在学中に卒業研究で作曲を行い、現在保育学科のテーマソングになっている「みんな

なの詩」を、卒業生と在学生在が歌った。今回、ゲスト出演してくれた卒業生は、在学時にコロナ禍で対面でのコンサートを行うことができなかったため、今回のコンサートでは自身が作曲した「みんなの詩」を伴奏者として、在学生、会場の子どもと一緒に「みんなの詩」を歌えたことを喜んでいました。なお、プログラムの裏面には来場された方のために「みんなの詩」の歌詞を掲載して、来場された方と一緒に「みんなの詩」を歌い、楽しい雰囲気の中でコンサートは終演しました。

#### 4. おはなしレストランにおける「おととえほんのじかん」

春学期の終わりにキッズコンサートを終えた学生は、二度の実習がある忙しい夏休みに、それぞれのテーマについて研究を進めた。例年、秋学期に卒業研究に向けたポスター発表の準備を行う。今年度は卒業研究に向けての準備が順調に進んだことから、12月下旬に本学のおはなしレストランで「おととえほんのじかん」という発表を行った。この発表は、読み聞かせに簡単な楽器で音をつけて絵本を子どもと楽しむ時間であった。学生たちは、キッズコンサートで生まれたチームワークの良さを活かして、「ねむれないひつじのよる」「ゆきだるまのクリスマス！」という絵本で、素晴らしい読み聞かせの発表を行った（図4）。なお、この読み聞かせについては、本学で開講されている「読み聞かせの実践」という授業で得た知識・技能が活かされていた。



（図4）おはなしレストランにおける「おととえほんのじかん」

#### 5. 卒業研究でのポスター発表

おはなしレストランで「おととえほんのじかん」が終わってからも、学生たちは1月末の卒業研究発表会に向けての準備を進めた。本学科の卒業研究発表会は

ポスター発表形式で行われ、グループを二つに分けて互いの研究成果を披露する。音楽研究室の学生も、キッズコンサートで試みたことや、文献調査で明らかになったことを発表した。ポスターも保育学科の学生らしいユニークなポスターに仕上げて、コンサートで使用したペープサートなども使いながら発表を行っていた（図5）。



（図5）ポスター発表を行う学生

## 6. コンサート開催による地域貢献活動

今回、卒業研究の活動の一環として子ども向けのコンサートを開催したが、このような活動は構成を変えるだけで、保育者として開催するコンサートに応用できる。保育園、幼稚園などでは、保護者の方、あるいは地域の方を招いた発表会が行われる場合がある。今回の「キッズコンサート」では、前半に学生の発表、後半に卒業生の演奏、最後に合同演奏のプログラムであった。この3部構成の内容は、そのまま子どもたちの発表、保育者の発表、あるいは保護者の方の発表に置き換えることも可能である。もちろん、地元の音楽家の方、サークル、同好会の方に発表を依頼することも可能である（図5）。このようなコンサートの開催は、地域貢献活動にもつながる活動である。



(図5) 保育者として開催するコンサートの構成

## 6. おわりに

キッズコンサートの企画・運営を行った2年生の学生は、実習や就職活動があるなかで、どのようなコンサートにするのか熱心に考え、子どもと楽しめる選曲から、チラシの作成、ホールの方との打ち合わせまで、一からコンサートの運営に関わった。また、それぞれの卒業研究のテーマである「生演奏が子どもたちにもたらす効果について」「保育の音楽表現におけるオノマトペの考察」、この二つのテーマをもとに選曲を行い、プログラムを考えた。コンサートでは、オノマトペが使われている曲を歌って、子どもたちにオノマトペの意味や楽しさを伝えていた。生演奏と音源による伴奏を使い分けることで、その長所と短所を知ることになった。また当日は、音楽研究室の卒業生で、松江市内で保育士として活躍している卒業生にピアノの演奏を披露してもらい、本格的なピアノ演奏を子どもたちに届けることができた。

今回のコンサートを経験したことで、2年生の学生は自分たちが日頃から行っている研究や音楽表現活動について、実践活動を行うことで研究テーマを深く理解することができた。コンサートでは目標とすべき卒業生と音楽を通じて関わることで、保育者としての具体的な将来像を描くことにつながった。また、コンサートの開催が地域貢献につながる活動であることを知ることができた。さらに、仲間たちとコンサートに向けて交流を深める中で、一つの目標に向けて切磋琢磨できる良いチームワークを学生たちが自然に生み出していた。このような卒業研究で得た学び・経験を生かして、将来保育者として様々な場面に応じた音楽表現活動、地域貢献活動を行ってほしい。



## 参考文献

渡邊寛智 (2021) 「音楽研究室における卒業研究の取り組み (I) : 学生たちが創作した「みんなのうた」を中心に」『島根県立大学松江キャンパス人間と文化』第4号、pp. 146-153